

平和省法案を米国議会に提出したデニス・クシニッチ下院議員(民主党ノオハイオ州)は、この法案を提出する際に、言いました。

「議長、私たちは心の奥底で知っています。恐れが私たちを暴力に導くこと、暴力が戦争に導くこと、戦争がすべての破壊に導くことを。しかも私たちは恐れを欲していません、暴力も戦争も欲していません。平和が欲しいだけなのです。私たちは平和を欲するあまりそのためには何でもしようと思っと思っています。それで安心のために軍備に予算の半分も使っているのです。

こんな暴力による平和維持など続かないことも知っています。そのやりかたでは私たちの子どもたちに未来を与えることができないことも知っています。

ですから今日、「平和と非暴力」省の設立法案3760を提出して新しい出発にします。これは、絶望ではなく勇気と希望を選択するという数十人の議員たちの宣言です。私たちは新しいアメリカと新しい世界を創ろうと宣言するのです。」

「平和省の夢 / デニス・クシニッチ下院議員の勇気ある発言」

以下は、彼が1月5日にクリーブランド州でした演説からの抜粋。

デニス・クシニッチ下院議員の演説(訳・森田玄)

私が描くアメリカとは、単独行動主義の代わりに世界調和を求める国であります。最初に攻撃するのではなく、最初に手を差し伸べる国。世界のひとびとの重荷を軽くするために努力する国。援助を乞われたら、爆弾ではなくパンを、ミサイルではなく医療援助を、核物質ではなく食料を分配するのがアメリカなのです。

アメリカには世界での役割があります。それは世界の国々と協力して世界各国の平和を達成することです。それは、不拡散条約の約束をもとに戻し、率先して核兵器全廃に向うことです。国際秩序を確保する手助けをすること。国際条約を補強し、順守すること。生物化学兵器と地雷の管理と最終的には撤廃を保証すること。炭素排出削減のため世界各国と協力して地球の気候を保護することです。

アメリカは世界を守る助けをできます。世界を救う助けができます。しかし、世界を管理することはできないし、私たちもそれを望むべきではありません。しかし私たちの政府はアメリカのパワーを支配するために使おうとしています。その国家安全保障の方針では、アメリカは世界のどこでも好きに攻撃でき、最初に核兵器を使えるとしています。我が国は今やイラクへの戦争を国をあげて行うとしています。

イラクはアメリカに対していかなる敵対行為をしていません。イラクは9月11日のテロ攻撃には責任がありません。9月11日テロ攻撃でイラクとアルカイダを結び付ける信用できる証拠は何もありません。炭疽菌事件にイラクは責任がありません。イラクが使用可能な大量破壊兵器を保有しているという証拠を国連は未だ確認していません。イラクがアメリカを攻撃できる能力があるという証拠は何もありません。

CIAによれば、イラクはアメリカを攻撃する意志はないが、もし攻撃されれば反撃すると言っています。それでは何故、我が国は30万人もの我が若い男女をバグダッドやバスラの市街戦に送り込もうとしているのでしょうか。なぜ我が国は、イラク破壊のために2000億ドル以上の、汗水たらして私たちが稼いだ税金を注ぎ込もうとしているのでしょうか。なぜ我が国は、歴史上かつてないほど強力な軍事力でイラク国民を攻撃し、彼らの家やビルを破壊し、水道や送電施設を壊滅し、彼らの食料や医療品の補給を絶とうとしているのでしょうか。

その答えは、石油経済、兵器輸出の利益、歪んだ帝国建設主義を抜きには考えられません。イラクとの戦争は間違っています。

しかしもし、イラクとの戦争に突入すれば、私たちはこの国で平和の種を蒔き始めなければなりません。私たちは立ち上がり、声を上げ、仲間をつくり、デモに参加し、戦争反対を要求し、戦争を肯定する政府を止めさせるよう求めなければいけません。

私たちがこの戦争に反対することは緊急な問題です。それは国家の優先事項を無視するでしょう。社会保障制度を危うくするでしょう。医療制度を危うくするでしょう。老人への医療補助を危うくするでしょう。アメリカがすべての人に仕事や健康医療補助、教育を与えることを危うくするでしょう。

戦争について政府に批判的なことは非愛国的だと信じる人たちがいます。その人たちは政治的には経済問題を論じた方が利口だと思っています。しかし、戦争を国家予算から分けて、戦争を経済から分けて、戦争を国民の生活必需品を供給する能力と分けて考えられるのでしょうか。

私たちは質問する必要があります：

* イラクの無実の人々の健康と生活を破壊するのに何千億ドルも使うのに、なぜアメリカ国民全員に健康医療補助をできないのか。

* アメリカはサダムフセインを引きずり下ろすのに何千億ドルも使うのに、なぜ自分の国民の退職保険を保護する金がないのか。

* イラクのユ - フラテス川の橋を爆破する金をアメリカにはあるのに、なぜここクリーブランドのクヤホガ川に橋を建設する金がないのか。

アメリカがとるべき道は繁栄を導くような平和です。それは経済システムが健全で、基本的な生活環境や人間の価値を保障するような平和構造を理解することです。これが平和省の夢です。それによって、アメリカが私たちの社会で非暴力を基本的原則にする第一歩を歩むことができるのです。マーティン・ルーサー・キング牧師の仕事を実践にすることができるのです。そして戦争自体を過去の物にできるのです。

この平和希求と平和創造の倫理によって私たちは宇宙から兵器を降ろし地球に新しい可能性溢れる天国を創造する仕事を始められるのです。

平和と繁栄が新生アメリカの2つの柱になるべきです。それが国家の目的として我が国民の経済と社会の安定をもたらし、そして他の国々の経済と社会の発展をもたらすのです。この国民の目的を確認することはフランクリン・ルーズベルトとニュー・ディール、リンドン・ジョンソンと偉大なる社会、ジョン・F・ケネディとニュー・フロンティアの夢でした。これは今後も私たちの夢であり続けるでしょう。

そして、どのような暗いときになっても、私たちはアメリカの目的の灯りをさらに高く掲げ続けるべきです。それがワシントンやジェファーソン、アダムズからリンカーンを経て今日までの時代を通して訴えている私たちの使命なのです。

私たち国民は、9月11日の暗黒日やそれに対する政府の対策にもかかわらず、常により高い使命感を持って来ました。それは危機の時も平和の時も、民主主義への探究と、自由と公正への探究を維持する使命感です。そのより高い使命感を私たちは感じることができます。そのより高い使命感が私たちの遺産です。

フランシス・スコット・キーの言葉がいまだに響いています：『自由の土地と勇気あるものたちの家の上に、星条旗は未だはためいているだろうか？』この中で彼は自由と勇気との結びつきを祝福しています。民主主義の中に生きるには勇気が必要だ、と。

テロリストに立ち向かい、基本的自由を守るには勇気が必要です。世界の兵器廃絶に向って進むには勇気が必要です。一方でそれが曲げられ破壊をもたらしています。世界の独裁者に対して、彼らを爆弾で黙らせたいという誘惑を抑えて交渉するには忍耐が必要です。大きな力を持ちながら世界でそれを優しく使うには知恵が必要です。そして生存を賭けて、厳しい生活環境や抑圧的な政府のもとで自己のつましい生活を送ろうとしている世界の人々の苦しい状況を理解するには、思いやりが必要です。

みなさん。これはあなたの政府です。その運命をどのように描くのかあなた方には発言する権利があります。その権利は私たちの独立宣言から導かれています。それは自己統治を基本的な権利としました。政府はワシントン DC だけで起きるのではありません。それは何千という市、町、村で起きるプロセスの結果です。それはまた、私たちの心に起きるプロセスでもあり、それが国土への愛やお互いの愛によって生まれるのです。私がこれらの希望や夢を遂行できるのはみなさんの愛からです。それを勇気を持って将来に向けてやっていくつもりです。ありがとうございました。